

10. 突発性難聴に対する OHP 治療成績について

中根 健 鈴江孝昭 山田直樹
黒江幸四郎 桜井隆寛 北垣 徹
河合 浩 渡辺晃祥

(愛知県厚生連渥美病院医療工学科)

1987年4月より1990年3月までに当院耳鼻科で治療した突発性難聴患者は男性36例、女性37例の計73例であった。これら症例に対し、空気加圧2ATAのOHP治療を計736回実施した。症例の内訳は水平型、低音障害型、高音障害型およびその他と分けた。治療効果判定は、治癒22例、著明回復6例、回復13例、不変32例であった。治癒・著明回復・回復を改善とすると、改善率56.2%であった。これに対し、OHP導入以前の6年間の改善率は33%であった。OHP治療の有無に関わらずステロイド治療は施行してあった。突発性難聴に対するOHP治療効果について統計的観察を行ったので文献的考察を加え報告する。

11. 当院における18ヶ月間のOHP療法の実績—作動回数1882回における—

三上孝宏 宮川貴美子 縮 育子
中山裕一 辻 勝久 山下淳一
竹島 徹

(つくばセントラル病院高気圧酸素治療室透析室)

【目的】当院における高気圧酸素治療法(以下OHPと略)は、第1種高気圧酸素治療装置KHO-201型の導入により、1988年12月当院開設より施行された。患者数の増加にともない同装置を2台とし、現在までの18ヶ月間の作動回数1882回における治療実績を報告する。

【方法】すべての患者に対し、純酸素加圧で2.0ATA、定圧60~63分で治療した。18ヶ月間施行した症例(男性52例、女性63例、平均年齢 61.7 ± 9.2 歳)の治療実績(平均治療回数 16.4 ± 13.4)を統計処理した。

【結果・考察】115例の内訳は、脳血管障害37.4%、イレウス19.1%、末梢循環障害16.5%、突発性難聴10.4%、骨髄炎4.3%、その他12.3%であった。当院の治療パターンは、突発性難聴で50%の改善を示した。ほかの治療効果については、当院での判定基準の確立が未だ不十分で、今後の検討が必要である。